

IMF サーベイ

エボラ出血熱流行

IMF、エボラ熱の拡大被害広がる諸国に対する 1億3,000万ドル支援を承認

2014年9月26日



フリータウンで開かれたエボラ熱対策トレーニングに参加し、防護手段を学ぶ医療関係者（写真：Xinhua/Huang Xianbin）

- ギニア、リベリア、シエラレオネ、歳入の大きな落ち込みと新たな支出ニーズに直面
- エボラ熱流行のマクロ経済面への大きな影響を受け、IMFが支援へ
- ラガルド IMF 専務理事、これら3カ国及び各種パートナーとの協力をコミット

エボラ出血熱による犠牲者が増え経済面への影響が広がるなか、国際通貨基金（IMF）は、エボラ熱の感染が最も深刻な西アフリカのギニア、リベリア及びシエラレオネの3カ国への合計1億3,000万ドルの緊急金融支援を承認した。

IMFの理事会は9月26日、緊急時の加速的な対応を行い、この人道的危機により発生した資金調達ギャップを支援するため融資を承認した。これにより、合計約3億ドルと想定される資金調達ギャップのかなりの部分がカバーされることになる。支援を受けるこれら3カ国は現在、エボラ熱の拡大に対し取り組みを進めているが、各種制度は脆弱であり医療制度も不十分である。また、歳入の大幅な落ち込みと流行拡大対策のために新たな支出ニーズという問題も抱えている。

IMFのこのたびの決定は、危機のマクロ経済への影響の拡大を受けてのものだ。これら3カ国は、長年抱えていた脆弱性と不安定性の克服で着実に前進してきた。エボラ出血熱への対策を支えるこの追加的金融支援は、国際収支と財政上の必要性に対処するなかで、経済的・社会的緊張を抱える加盟国を支援するという、IMFのマנדート（責務及び権限）と整合的である。

広がる経済面への影響

クリスティーヌ・ラガルドIMF専務理事は「ギニア、リベリア、シエラレオネにおけるエボラ出血熱の流行で余りにも多くの命が犠牲になった」と述べた。「この人道的危機は、経済面に深刻な影響も及ぼしかねない。ギニア、リベリア、シエラレオネの各国政府は、特に最も脆弱な人々に甚大な影響を及ぼしている前代未聞の流

行を封じ込めるための取り組みを強化すべく、IMFに対し支援を要請した。早急に流行を沈静化するとともに、その後の経済の建て直しを支援するために、IMFはこれらの国々やその開発パートナーと協力し尽力している」

融資取極は、各国のIMFクォータ（出資割当額）の25%規模に相当する。詳細は以下のとおり。

・**ギニア**：理事会は「[ラピッド・クレジット・ファシリティ（RCF）](#)」による4,140万ドルの支援を承認。エボラ熱の流行はギニアで2013年末までにはじまり、被害規模は近隣諸国より若干少ないものの7月から急拡大を見せた。同国の短期的経済見通しは急激に悪化、2014年の成長率は今年はじめに見込まれた4.5%から2.4%まで落ち込むと予測される。ギニアは、現行の「[拡大クレジット・ファシリティ（ECF）](#)」取極のもと順調に進展を続けているが、ECFの最新のレビューがまだ行われていないことから、RCFのもとで緊急融資を受けることになる。

・**リベリア**：理事会は、現行のECF取極のもとでの4,830万ドルの拡大を承認。現時点において、リベリアの被害が最も甚大でその規模は同国の対応能力を超えている。人的被害に加え経済的・社会的影響も深刻で、10年に及ぶ平和の恩恵が損なわれる危険もある。推計によると、2014年の実質GDP成長率は、鉱業、サービス、農業といった経済の主要なセクターが全て極めて混乱していることから、6%から2.5%へ落ち込むと見られる。

・**シエラレオネ**：シエラレオネの支援は、ECFを拡大して行われる。規模は3,980万ドル。エボラ熱は全土に拡大、社会面・経済面に深刻な影響を及ぼしている。今年の成長は減速し、成長率は8月の時点で11.3%から8%まで落ち込むと予測。インフレ圧力が高まり国際収支・財政面とともに新たなニーズが浮上している。

IMFアフリカ局のアントワネット・サイエ局長は「このような規模の健康危機により、経済面に大きな影響が及ぶことは避けられず、加盟国を支えることはIMFの責務である」と述べた。「我々は、これら3カ国全ての関係当局と密接に協力しており、エボラ対策で前進できるよう融資と助言を行っていく」

拡大のペースが速まる

エボラ出血熱とは野生動物が自然宿主であり、今年初めにギニアで症例が確認された後リベリアとシエラレオネという近隣諸国に拡大していった。世界保健機関（WHO）によると、3カ国で約6,000人の感染が確認されており（ナイジェリアとセネガルでも複数確認されたが、現時点ではウイルスは封じ込められている模様）、約3,000人が死亡したとされている。

しかし実際の数字は、発生数と死亡数ともに大幅に報告漏れがあるとの証拠もあるように、もっと高い可能性がある。さらに、拡大のペースは、特にリベリアそして程度は少ないもののシエラレオネでもここ数週間で速くなっている。

これら3カ国では、公的な医療面の能力が極めて限られていることを主な理由に流行しているエボラ熱に対し、効果的な防御策を打ち出そうと取り組みを進めている。国際連合、WHO、世界銀行、アフリカ開発銀行などをはじめますます多くの国際機関や、国境なき医師団や赤十字といった非政府組織などが対策にあたり、また民間の現地そして国際ドナーが多大な資源の提供を約束している。

関連リンク：

[プレスリリース](#)

[ギニアとIMF](#)

[リベリアとIMF](#)

[シエラレオネとIMF](#)

[ギニアの鉱業ブーム](#)

[リベリアの天然資源](#)